

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地					
トライデントコンピュータ 専門学校		昭和59年3月31日	中原 千賀子	〒 450-0002 (住所) 愛知県名古屋市中村区名駅3-24-15 (電話) 052-581-0581					
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人河合塾学園		昭和53年8月1日	河合 英樹	〒 464-8611 (住所) 愛知県名古屋市中村区今池2-1-10 (電話)					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
工業	工業専門課程	CGスペシャリスト学科	平成6年度	-	平成26年度				
学科の目的	ゲーム制作やアニメーション制作現場、映画製作などの業界就職を目指し、業界第一線で求められる知識、技術、表現力を3年間で徹底的に習得する。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	CG-Arts検定ベーシック(令和6年度):12/14名合格 CG-Arts検定エキスパート(令和6年度):1/7名合格								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,700 単位時間	300 単位時間	2,670 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
				単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率				
105人	137人	1人		1%	5%				
就職等の状況	■卒業生数(C)		46人						
	■就職希望者数(D)		44人						
	■就職者数(E)		41人						
	■地元就職者数(F)		9人						
	■就職率(E/D)		93%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		22%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		89%						
	■進学者数		0人						
	■その他								
	(令和6年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等		(令和6年度卒業生) 任天堂株式会社、カプコン株式会社、ポリゴン・ピクチュアズ株式会社など							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:無 ※有の場合、例えば以下について任意記載			-					
	評価団体:	受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://computer.trident.ac.jp/courses/cg_specialist/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				2,970 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				120 単位時間				
	うち必修授業時数				2,700 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				120 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
	(B:単位数による算定)								
	総単位数				単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数				単位				
	うち必修単位数				単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)			0人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)			3人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)			0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)			0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)			1人					
	計			4人					
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数			4人						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針
 常に業界第一線の状況を把握し、最先端の知識や技術を学校として吸収し教育内容に反映していくことはもちろんのこと、学生への教授についても第一線の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施するため、本校で開催する教育課程編成委員会においては、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを目的とする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱を受けた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、教務チームにおいて協議のうえ学科主任に指示し、実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言とその助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
篠原 たかこ	公益財団法人 画像情報教育振興協会	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	①
谷口 顕也	株式会社サムライピクチャーズ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	③
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	③
河村 陽子	株式会社イルカ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	③
勝田 雅人	トライデントコンピュータ専門学校 校長		-
中原 千賀子	トライデントコンピュータ専門学校 教務チーム チーフ		-
中村 亮太	トライデントコンピュータ専門学校 キャリアセンターチーム チーフ		-
岡本 光生	トライデントコンピュータ専門学校 CGスペシャリスト学科 学科主任		-
新保 孝	トライデントコンピュータ専門学校 CGスペシャリスト学科 講師		-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月27日 15:30~17:00

第2回 令和7年2月20日 15:30~17:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業連携授業の活用方法と個人制作・共同制作のバランスについて議論を行い、カリキュラムへの反映を検討することとした。

●企業連携授業における作品講評を継続・強化し、制作における多様な視点の獲得を促す。また、特定の志向（ハイエンド向けなど）への偏りを避けるため、多様な企業との連携を実施し、学生のレベルや志向に合ったフィードバックが得られるよう工夫する。

●共同制作においては、担当分けなどを徹底し個々の学生の貢献度を明確に評価できる仕組みを構築する。個人としての達成感を担保しつつ、能力の高い学生による中間層のクオリティ底上げを促進する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による演習等の科目においては、企業の業務水準を現実的に体感させることを主目的に設定する。疑似体験的な演習講義を通じて、企業で日常使われている技術・知識を体験、習得させる。また、授業を通じて学生たちが生み出した成果物に対する評価においても、学校という教育環境下での評価ではなく、市場を見据えた企業の現実の評価基準での判定を実施していただく。また、こうした演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

CGに関する実践的な授業を行うため、企業から当該企業に所属するCGスペシャリストを講師として派遣し、校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力を得られる企業を選定している。また、校内実習の実施にあたり、企業等から課題を提示し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業を選定している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
3DCG制作	目指す進路を意識した3DCG作品の制作。デザイン、モデリング（スカルプト）、テクスチャリング、スキニング、ポージング、ライティング、レンダリング、コンポジット、3DCGの制作プロセスを確実に習得し、オリジナリティーある就職クオリティーの3DCG作品の完成を目指す。作品制作における適切なスケジュール管理を学ぶ。ゲームアセットとしてのデータの取り扱いを学ぶ。	株式会社ケーソー
3DCG演習	各メディアでCG表現が当たり前の時代となり、ゲーム・CG業界では、CG技術はその核となるものである。特に3DCG制作はその中心的な存在である。さらに、3DCGによる将来の表現の拡大を視野に入れながら、底辺となる関連知識・技術を習得していく。	株式会社Spooky graphic

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針</p> <p>※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記</p> <p>専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規程に定められている通り、年度当初にチーフと学科主任、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり2～3回の研修を義務付けている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に努めている。ただし、個人の努力目標のみではなく、業界第一線の知識・技術の習得については学校として機会を積極的に提供していく。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても年度当初に年間計画を立案し、1回以上の実施を法人全体の課題として取り組んでいく。</p>			
(2) 研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	デジタルハリウッドアカデミーオンライン講座	連携企業等：	デジタルハリウッド株式会社
期間：	2024年4月1日～2025年3月31日（1年通年）	対象：	学科教員
内容	動画教材のストーリーミング視聴でMaya、Zbrushなどの3D描画ツールについて学ぶ		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	主体的・対話的で深い学びの実現～専門学校AL形式中心の授業スキル向上の習得	連携企業等：	(株)AL&AL研究所
期間：	2024年8月29日	対象：	教員
内容	AL形式の授業スキルの向上		
研修名：	著作権と学校教育	連携企業等：	一般社団法人 日本著作権教育研究会
期間：	2025年2月27日	対象：	職員・教員
内容	著作権法の概要、教育における著作権について		
(3) 研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	デジタルハリウッドアカデミーオンライン講座	連携企業等：	デジタルハリウッド株式会社
期間：	2025年4月1日～2026年3月31日（1年通年）	対象：	学科教員
内容	動画教材のストーリーミング視聴でMaya、Zbrushなどの3D描画ツールについて学ぶ		
研修名：	CEDEC2025	連携企業等：	CESA
期間：	2025年7月22日～2025年7月24日	対象：	学科教員
内容	ゲームのマーケティングについて など		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	主体的・対話的で深い学びの実現～専門学校AL形式中心の授業スキル向上の習得	連携企業等：	認定NPO法人開発教育協会
期間：	2025年8月20日	対象：	教員
内容	AL形式の授業スキルの向上		
研修名：	多様な特性（発達障害）を持つ学生を支える教育現場づくり	連携企業等：	名古屋市ナゴヤあいサポート事業事務局
期間：	2026年2月18日	対象：	教員
内容	1時間の講話と30分の質疑応答		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価
(2) 学校運営	学校運営の方針、学校組織の運営・意思決定プロセス、組織の活性化、業務の効率化
(3) 教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム編成、カリキュラムに対する評価体制、各学科のカリキュラム編成方法、IT業界人材ニーズの把握、授業計画・コマシラバス、インターンシップ、授業・科目の編成、専門教育・一般教育の配分や考え方、実習の意義、キャリア教育、教育方法の工夫、授業内容の把握・分析・評価体制、講師の採用基準、現在の講師陣の状況、講師の専門性把握および教育スキルの向上、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、退学についての考え方
(4) 学修成果	資格取得指導、資格取得状況、卒業生に対する評価、在校生の作品成果・受賞の状況
(5) 学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導、学生生活相談、奨学金や学費についての支援、学生の健康診断、クラブ活動、卒業生支援(同窓会)
(6) 教育環境	学校施設・設備の充実、防災、保健衛生管理
(7) 学生の受入れ募集	入学選考の考え方、学生募集活動の考え方
(8) 財務	予算・監査
(9) 法令等の遵守	法令等の順守
(10) 社会貢献・地域貢献	法令遵守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価及び第三者評価
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

退学率の低減策の一つとして挙げている「学生の授業出席状況」の保護者連絡(年二回)について、もう少し頻度を上げてはどうかとの意見を踏まえ、従来行っていた前期途中、後期途中の二回に加え、前期終了後、後期終了後の二回を加え計四回の連絡を行うこととした。この結果については現在効果測定中である。

また、卒業後のキャリア形成効果把握の実施方法が不明瞭であるとの意見を受け、当校の卒業生に対して現在の就業状況や当校で学んだ内容の効果を問う全数調査を実施した。得られた回答に対して分析を行い、教職員への展開を行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
石本 則子	株式会社ファンコーポレーション	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
笹木原 慎一	株式会社ハ・ン・ド	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
鈴木 敬	株式会社プリアップパートナーズ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
酒井 章次	株式会社ジェイテック	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
三木 哲朗	竹田印刷株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
佐川 俊彦	株式会社ヤマダデンキ ツクモ名古屋法人営業所	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
村上 貴義	ヤマトシステム開発株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	企業等委員
宮田 利昭	一般社団法人 愛知県情報サービス産業協会 [A i A]	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年)	業界・職能団体
内田 武司	愛知県立春日井泉高等学校	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日 (1年)	高校教諭

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ())
 URL : https://computer.trident.ac.jp/introduction/school_more/
 公表時期 : 令和7年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

広報的作成物だけでなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・教育目的、教育目標、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生
(2) 各学科等の教育	各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、資格取得・検定試験合格等の実績、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の意義、キャリア教育、就職指導の全体方針、就職指導體制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学生生活相談
(7) 学生納付金・修学支援	学費、学費援助制度
(8) 学校の財務	河合塾学園事業報告
(9) 学校評価	自己点検・自己評価報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ())
 URL : https://computer.trident.ac.jp/introduction/school_more/
 公表時期 : 令和7年7月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程 CGスペシャリスト学科) 令和7年度																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	西 暦 年 月 日	授 単 数	授 業 位 数	授 業 時 数	授業方法			場所		教員	
										講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任
	○			社会人基礎力	社会人として活躍するための重要な能力のひとつである「社会人基礎力」を身につける。今や、専門学校をはじめ大学や企業研修などにも使用されてきている。本科目では、この社会人基礎力を構成するいくつかの要素に着目し、社会人として必要な基本スキルを身につける。	1前	90	3	○	△		○		○	○	
	○			ビジネスマナー	社会人としてのルールとマナーを相対的に学ぶ。具体的には就職活動を行うにあたり自分自身の良い点残念な点を理解して面接におけるコミュニケーション能力を実践で身につける。	2後	30	1	○	△		○			○	
	○			プレゼンテーション演習	社会人として不可欠なプレゼンテーション能力についての理解を深め、経験を積み重ねることで自身の考えを相手に的確に伝える能力を養う。	1後	30	1	△	○		○			○	
	○			一般教養	クリエイティブ業界で働く社会人として必要な知識と教養を習得する。筆記試験の対策をはじめ、履歴書など就職活動に必要なドキュメントの文章作成能力を引き上げる。	2前	30	1	○	△		○			○	
	○			業界研究	CG業界における業種・職種に対する特性を知り、就職希望業種・職種を決める。またイメージのズレを無くす。・就職に必要なこと、業界での出来事をリアルタイムに知る。	2前	30	1	○			○			○	
	○			企業研究	就職活動に対する意識づけをする。業界・業種・職種について調べる。就職活動に必要な知識やマナーを理解する。自己分析を行い、自己PRをする。履歴書やエントリーシートを作成する	2後	30	1	○			○			○	
	○			就職研究	個々の学生の就職活動の状況を把握し、効果的に就活を進めるための総合的サポートをおこなう。	3通	60	2	○			○			○	
	○			デッサン	鉛筆デッサンや絵の具を使用した描画・絵作りを学び、実践する。観察力、描写力、演出力を向上させ、CG造形の基礎を身に付ける。制作のリメイクを通して、社会人基礎力を上げる。	1通	240	8		○		○			○	
	○			集中描画（集中）	人肌、髪、衣服などの質感を描き分け、粘り強く調整を繰り返しながら生命感のある絵を完成させる。作品とじっくり向き合う中で、鉛筆を使った表現の極限に迫り、模写作品として就職クオリティの作品を完成させる。	1後	60	2		○		○			○	

10	○		造形演習	アナログ制作を通じて造形芸術における価値観を見出し、CG造形の基盤（観察力、描写力、演出力）を築くことを目的とする。より良い作品を仕上げるための探求心と忍耐力を身につける。	1通	240	8		○	○	○			
11	○		CG概論	映像・ゲームグラフィックに携わる仕事をを目指す者にとって必要なPCのハードウェアおよびソフトウェアの基礎知識、またCG制作のための予備知識の習得を目的とする。	1前	30	1	○	△	○	○			
12	○		デジタルペイント	業界標準のペイントソフトPhotoshopの機能の理解と、ペンタブレットを併用した基本操作の習得を目的とし、2D作品の制作、3Dモデルのテクスチャ制作を行う。	1通	120	4		○	○	○	○		
13	○		モデリング基礎	ゲーム業界やCG業界に必要なキャラクターや背景の3DCG制作の基礎を学ぶ。3DCGの基本であるモデリング、UV設定、ポリゴンと立体形状の関係を制作を通して学ぶ。	1前	60	2		○	○	○			
14	○	ゲーム制作やアニメーション制作現場、映画製作などの業界	イメージ描画	幅広いターゲットに対して多彩なモチーフの魅力的なデザインを提案できるようになるための基礎学習。趣向や流行のみに囚われない発想を習得し、自己の視野の拡がりを楽しみながら学ぶ。人体を扱う上で必須となる解剖学の基礎知識や、CG・ゲーム企画の基本ステップも併せて学ぶ。	1後	60	2		○	○	○			
15	○		3DCG基礎	3DCGの基本であるモデリング、UV設定、ポリゴンと立体形状の関係、アニメーション基礎を学ぶ。	1後	60	2		○	○	○			
16	○		ドローイングアニメーション	アニメーションに関する基礎的な技術・知識は、CGも手描きも共通な部分が多い。本科目では、基礎的なレベルで物やキャラクターの動きをPhotoshopや手描きを通して学ぶ。	2前	30	1		○	○	○			

17	○		イラストレーション技法	CGデザイナーとして必要な表現の幅を増やす。デジタル作品の制作では偏りがちな表現やイメージをアナログならではの自由な発想と表現を実践し学ぶ。	2通	120	4		○	○				○
18	○		イラスト技法応用	アナログにて特定の画法での描画や他ジャンル作品への取り組みを行い、表現の造詣を深める。アナログならではの表現方法を活用し、片寄り気味なイメージや発想と表現の幅を広げ、より自由な創作を目指す。	3前	60	2		○	○				○
19	○		CG応用技術	進歩するデジタル制作環境の現状を踏まえ技術や作品はどの様なものがあるのかを知る事や機能紹介や技術的な知識の習得を目的とする。実制作で起こる多様な問題点をどの様に解決するのかを学ぶ。制作を円滑に進行するにはスケジュール管理、クオリティ維持、データ整理等の方法、研究開発企画を通して (R&D)とパイプラインの構築をしてゆく。	3通	60	2		○	○				○

20	○		デジタルイラスト	就職に向けての作品制作に活かすべく、ポートフォリオの制作に必要なIllustratorの基本操作やPhotoshopによるより高度で実践的なテクニックを習得する。	2前	30	1		○	○	○	○	
21	○		アイデアスケッチ	映像企画やゲーム制作などコンテンツ制作のスタート時には、多くのアイデアを柔軟に、またスピーディーに出すことが求められる。この授業では、アイデアを出すための方法を、さまざまな課題を通して学んで行く。	2通	60	2		○	○	○		
22	○		C G デザイン (集中)	この学年で学ぶべきことや目標の確認を行い、アナログからC Gへの橋渡しの事項、また各専門分野のエントリーを学習する。C Gやデザインの企画から取材、そして制作までのステップを学ぶ。短期間での取材、制作、フィニッシュへのスケジュール管理の方法を学ぶ。	2通	90	3		○	○	○	○	
23	○		デザイン演習	IllustratorやPhotoshopを活用し、業界で必要とされるグラフィックデザイン、レイアウトの基本から応用までを作品制作を通して習得する。卒業制作、就職作品制作におけるブラッシュアップを主に行い、作品クオリティをより高いレベルに仕上げる。	3通	90	3		○	○		○	
24	○		卒業制作	個々の希望業種のために必要なスキル習得をC Gムービー作品制作またはゲームC G作品制作を通してアップさせ、3年間の集大成となる卒業制作を行う。	3通	510	17		○	○	○	○	
25	○		就職作品制作 (集中)	希望職種ごとに設定された短期間課題制作に取り組み、クオリティとスピードの両面のバランスを取りながら作品を制作し、今後の課題制作の効率を上げる	3通	90	3		○	○	○	○	
26	○		映像企画	映像制作 (CG映像含む) における、企画、立案、構成、工程管理等の重要性を理解し、それらの基礎技術を学ぶ。映像編集の基礎技術を学び、簡単な編集作業を行える技術を習得する。グループワークにおける役割分担の重要性を理解し、協調して作業を進める力を養う。	2前	60	2		○	○		○	
27	○		3 D C G 演習	各メディアでC G表現が当たり前の時代となり、ゲーム・CG業界では、CG技術はその核となるものである。特に3 DCG制作はその中心的な存在である。さらに、3 DCGによる将来の表現の拡大を視野に入れながら、底辺となる関連知識・技術を習得していく。	2通	180	6		○	○	○		○
28	○		C G 技術	近年CG技術がどんどん多用される傾向にある。3 DCGソフトの中で、M a y a がシェアをのばしている現況、業界就職後につながる基礎的なレベルのスキルを習得する。	2後	30	1		○	○		○	
29	○		3 D C G 効果	3dsmaxの基本的なパーティクルフローを理解する。3dsmaxとAfter Effectsの連携によりV F X表現にトライする。スペースワープ、パーティクルシステムにも触れる。	2後	60	2		○	○	○		

30		○	3Dアニメーション	物やキャラクターの動きについて、CG業界において必要な高いレベルのアニメーション基礎力を身に付ける。キャラクターの動きをCGソフトで作成するだけでなく、アニメーション理論を3DCGで表現する。ロボットアーム課題を通して基本的なアニメーションを高いレベルまで引き上げる。	2通	120	4		○	○	○							
31		○	デジタルイラスト応用	実写素材をモチーフにデフォルメや省略を行い、写実より製作者のイメージを強調したデザインを行う。	2後	30	1		○	○								
32		○	映像編集基礎	AfterEffectsを使用しCG映像の編集を学び、CG作品の作りこみに生かす。また、実際のクライアントを想定して、企画・構成・制作を行い、実践力を身につける。	2後	60	2		○	○								
33		○	映像編集応用	写真、映像素材やCG素材などを組み合わせて、効率的に魅力的のあるCG作品を作る方法を学ぶ。また実写合成の実習もを行い、フォトリアル表現の制作経験を得る。各自でテーマを設定し制作を推進しレベルアップを図る。企業連携科目の位置付けである。	3通	120	4		○	○								
34		○	ゲームキャラクターデザイン	ゲームの企画・デザインの方法を学び、業界に必要な人材になる。具体的には、手描きおよびPhotoshopによるゲームキャラクター制作を学ぶ。また、デジタルでの模写を通じて、デザインワークに向けての引き出しを増す方法を学ぶ。	2通	150	5		○	○								
35		○	ゲーム背景制作	ゲームCGにおいて、背景デザインや制作へのニーズは極めて高い。手描きおよびPhotoshopにより、背景デザインを学ぶ。また、デジタルでの模写を通じて、デザインワークに向けての引き出しを増す方法を学ぶ。	2通	120	4		○	○								
36		○	3DCG制作	目指す進路を意識した3DCG作品の制作。デザイン、モデリング（スカルプト）、テクスチャリング、スキニング、ポージング、ライティング、レンダリング、コンポジット、3DCGの制作プロセスを確実に習得し、オリジナリティーある就職クオリティーの3DCG作品の完成を目指す。作品制作における適切なスケジュール管理を学ぶ。ゲームアセットとしてのデータの取り扱いを学ぶ。	2通	120	4		○	○								○
37		○	3DCG技術	ゲーム3D背景や3Dキャラクターのモデリング技術の習得。3Dライティングによる明暗や陰影表現を習得する。テクスチャレンダリングによる凹凸情報をモデルに焼け付ける。	2通	120	4		○	○								

38	○	ポートフォリオ制作	IllustratorやPhotoshopを活用し、作品を効果的にアピールできるポートフォリオを制作する。ポートフォリオの役割を理解し、各自の目指す業種に応じた作品選定、情報の整理、レイアウト術を学ぶ。また、紙面とデジタルの両媒体での出力方法を習得する。	2後	30	1	○	○	○				
39	○	C Gアニメ	3dsMAXやAfterEffectsを活用してアニメ制作の基本を学ぶ。また、エフェクト表現、物理エンジンの活用等を演習を通じて習得する。3D要素を活用してコンポジットを行う。	3通	120	4	○	○				○	
合計		必修：25、選択必修：8 (6)		科目	99 (2970)		単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	下記条件を満たし、卒業判定会議で承認されること 1年次：30単位 (900時間) 以上の取得 2年次：30単位 (900時間) 以上の取得 3年次：30単位 (900時間) 以上の取得	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	1年次：必修科目33単位 (990時間) を履修 2年次：必修科目15単位 (450時間)、選択必修科目18単位 (540時間) を履修 3年次：必修科目29単位 (870時間)、選択必修科目4単位 (120時間) を履修	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。